

一粒のイチゴが教えてくれたこと —— 生徒と歩んだ、挑戦の日々 ——



「農場でイチゴを育て、そのイチゴでジャムを作ろう。校内で六次産業化もできるはずだ！」

谷前校長の「鶴の一声」によって、イチゴのプロジェクト活動は始まりました。

当時、食品科学コースから生物資源コースに異動して数年目だった私は、「イチゴジャムの製造自体は難しくはない。何とかなるだろう」と、今思えば甘い気持ちでこの話を引き受けました。そのことを周囲の先生方に話すと、「イチゴは難しいですよ」「よりによってイチゴですか」「病気や害虫が多く、薬剤散布が大変ですよ」と、返ってくるのは否定的な意見ばかり。野菜栽培の経験が乏しかった私は、不安を募らせていきました。

令和五年十月、本校のガラス温室に四・五mの高設栽培キットを導入。栽培品種「章姫」四五株の試験栽培が開始されました。当時は、何もかもが手探りの状態で、イチゴの管理も思うようにはいきませんでした。収量は極めて少なく、果実の形も不揃いで、「一体、何を栽培しているのだろうか」と感じることもありました。そんな時、当時一緒に栽培に取り組んでいた生徒が、収穫したイチゴの中で一番きれいな一粒を、「先生、食べてください」と差し出してくれました。普段は学校の農作物を口にすることの少ない私でしたが、その一口は「あまつしゅー！パーで販売されているものよりおいしい！」と、雷に打たれたかの

農場長・生物資源コース長 教諭 川端 伸

ような衝撃を受けました。このイチゴが安定して収穫できれば、「翠星高校の新たな魅力となり、生物資源コースの特色ある学びになるのではないか」と思うようになり、次第にイチゴの高設栽培に力を注ぐようになりました。

翌年（令和六年度）には、文部科学省「高等学校DX加速推進事業」（DXハイスクール）に認定され、本校のガラス温室の改修工事を行い、約一〇〇mの高設栽培キットや室温を一〇度以上に保つ大型ヒーター、根域を一五度以上に保つジョウオンボイラ、LED電照などが整備されました。もう後戻りできないと背水の陣で栽培に取り組みました。前年の反省を活かし、栽培品種「章姫」一、〇〇〇株の管理に取り組みました。

しかし、定植時期の遅れにより初期生育が不十分となり、促成栽培には至りませんでした。それでも三月以降は収穫量が伸び、目標としていた総収量五〇〇kgを達成し、最終的には約五三五kgのイチゴを収穫することができました。収穫したイチゴのうち規格外となった約一〇〇kgは食品科学コースへ提供し、本校産イチゴを用いたジャムの製造に活用しました。これにより、校内における六次産業化を実現することができました。さらに、規格外果を活用した和菓子やジェラートの開発にも取り



組み、コースの垣根を越えた探究的な学習活動へと発展しました。今年度（令和七年度）は、栽培品種を極早生品種「かおり野」に切り替え、十一月十四日からの収穫に成功し、促成栽培を実現することができました。これからは自家育苗にも挑戦します。これら一連の取り組みをまとめたプロジェクト発表では全国大会への出場を果たし、私自身にとっても、七度目の挑戦で生徒とともに勝ち取った大きな成果となりました。

イチゴの高設栽培に生徒とともに取り組む中で、私は一つの大きな気づきを得ました。それは、どのような状況においても「不可能」と決めてはいけない、環境や常識ではなく「自分自身」であるということですが、軽い気持ちで始めた取り組みでしたが、生徒とともに真剣に栽培管理を続けた結果、本校のイチゴ栽培をきっかけに新規就農者が誕生するなど、活動は地域へと広がりました。

目標の達成を信じて行動し続けることの大切さを改めて実感するとともに、このような貴重な学びを得られる翠星高校は、「地域を支える人材育成」のトップランナーであると確信しています。今後は、「決して不可能なことはない」と信じ、石川県におけるイチゴ高設栽培モデルの確立や、本校産イチゴを活用した百五十周年記念事業の記念品製作に生徒とともに尽力していきます。



一念発起 そして2つの合格へ……



私が公務員を目指したのは、令和七年の夏でした。それまでは土木系の仕事に興味がある程度で、具体的な方向性は決まっていなかった。そんな時、進路の先生から市役所で土木職員を募集している聞き、「やるだけやってみよう」と思い、公務員試験に挑戦することを決めました。

まずは、二次試験の合格を目指し、夏休み中に行われた農業クラブ県連大会・平板測量競技会を終えた後に、市村先生に補習をしていただきました。専門科目の問題集に取り組み、分からないところを何度も先生に教えてもらいながら解き直しました。また、市役所に提出するエントリーシートにも苦戦しましたが、無事一次試験を突破。その後、不安な面接試験に備え、昼休みや放課後を利用して面接練習を繰り返し行い、少しでも自信を持って試験に臨めるよう準備を進めました。結果、二次試験にも合格し、肩の荷が下りた思いでした。

さらに、十月に受けた土木施工管理技士二級にも合格し、合格通知を受け取ったときは驚きを隠せませんでした。二年生の終わりから早朝補習に参加し、繰り返し問題を解くことで少しずつ力を付け、これらの努力が実を結んだと実感しています。

ここまで来られたのは、市村先生をはじめ私を支えてくださった先生方のおかげです。本当に感謝しています。三年間、翠星高校での活動は非常に貴重で有意義な経験でした。これからは公務員として社会に貢献し、さらに成長できるよう全力を尽くしていきます。

総合グリーン科学科 環境科学コース 環境設計分野 3年 佐野 優空

あつまれ！100年の森



昭和五十一年、開校百周年記念事業で作庭された庭園「造園実習見本園」は、かつて学びと憩いの場でした。平成十二年の学科改変による授業数・生徒数の減少により、手入れが行き届かず鬱蒼とした森ようになってしまいました。そこで、一〇〇年後も維持管理できる「持続可能な庭園」に再生する「100年の森計画」が創立百五十周年事業としてスタート。環境科学コースと生徒実行委員会が「チーム100年の森」を結成し、令和五年度から活動を開始しました。

総合実習・課題研究の授業で、「未来に残したい樹木」四十三種の選定や池の浄化、カイズカイブキの伐採、タギョウショウ並木の生育改善などの庭園再生を自分たちの手で行うことができ、庭園整備を通して生徒が造園技術を身につけることができました。令和五年度からの庭園再生作業は、「延人数二、三九人」、「延べ時間二、四〇三時間」にもなりました。百五十周年記念事業の一環として設置される円形広場（レインガーデン）は、令和八年九月完成予定）は、本

環境科学コース造園分野 教諭 高田 葵 平成二十六年卒業 総合グリーン科学科

会長のご紹介で白山市出身の「(株)SOMEWHERE DESIGN STUDIO」代表・岩村卓弥さんに設計して頂きました。さらに、かつて行われていた体験型環境学習「松農グリーンアドベンチャー」を「翠星グリーンアドベンチャー」として復活させました。また、庭園の地下水を非常時に生活用水として使用できる「白山市災害時協力井戸」として登録しました。地域の防災にも役立つ庭となりました。

今年度は、これらの取り組みをまとめた「農業クラブプロジェクト発表会」に挑戦し、造園分野初となる全国大会の舞台に生徒と共に立つことができました。学校創立百五十周年を契機とした記念事業にとどまらず、持続可能な地域社会の実現と、地域と共に育つ次世代人材の育成へとつなげる重要な取り組みであると感じています。 「100年の森」が地域の宝となり、生徒だけでなく地域の方の憩いの場・学習の場となることを目標に今後も生徒と共に頑張っていきます。未来の生徒たちが集まる合言葉、「100年の森、集合な！」



レインガーデン予定地



翠星グリーンアドベンチャー



池の浄化



白山市災害時協力井戸に登録

若者への和菓子の普及を目指して



食品科学コース「翠星・和菓子部」では、地元和菓子店から「若者の和菓子離れや後継者不足に悩んでいる」と相談を受け、若者への和菓子の普及を目的に活動しています。白山市内の和菓子店でキャンペーン商品を販売し、年長者を敬う敬老の日に「若者から年長者へ和菓子を贈る」新文化の定着を図り、若者への和菓子の普及と和菓子業界全体の活性化を目指す「敬老の日キャンペーン」を令和五年度から実施しており、今年度三回目となります。白山市地産地消課・地元和菓子店九店舗・イオンモール白山・道の駅めぐみ白山と協力し、「第三回敬老の日キャンペーン」を開催できました。今後は全国展開を目指していきたいです。

また、地元和菓子店「御菓子司雅風堂」と連携し、「翠星産イチゴ」と「本校乳酸菌飲料ラクピス」を合わせた、イチゴ大福（名称「イチゴイチエ」）の協働開発を行いました。校内や店舗、イ

食品科学コース 教諭 金田 侑也 平成二十七年卒業 総合グリーン科学科

オンモール白山「和スイーツ祭」などで販売ができ、地域の方々に地元食材の魅力発信・和菓子の普及ができた。キャンペーンの開催や和菓子の開発・販売など、一つひとつの取り組みは、生徒の努力と地域の方々のご協力があつてこそ成果に結びついたと考えています。また、第76回日本学校農業クラブ全国大会西関東大会プロジェクト発表会・分野Ⅲ類において、二年連続優秀賞を受賞することができました。今後も地域との繋がりを生徒と共に持ち、学校内外へ和菓子の魅力を普及し、日本の伝統文化和菓子を守り続けていきたいです。



支部だより

関東支部

昭和三十七年卒

吉本 忍

関東支部第二十九回総会を、令和七年十一月八日に主婦会館プラザエフに於いて、来賓に同窓会本部より本会長、母校より宮下校長先生、白山市東京事務所の村井所長と、会員一〇名の参加により開催しました。はじめに支部長より今年の行事は、予定通り開催できたと報告され、次に本会長には、創立百五十周年記念事業の進捗状況等の報告のご挨拶を頂き、続いて議事に入り、「事業報告」「収支決算報告」「次年度事業計画案と予算案」を審議し、承認いただき総会は終了しました。引き続き懇親会に入り、宮下校長先生からは、新任の挨拶と学校の近況報告を、村井所長には白山市の近況報告を頂き、年長の大石様の乾杯のご発声で宴に入り、この一年の物の値上がり、健康の話題で盛り上がり、村井所長には支部恒例の余興をリクエストされ、披露してまた盛り上がり、越村副支部長の、締めめの挨拶でお開きとなりました。



東海支部

昭和三十七年卒 猿渡 孝之 (旧姓加成)

令和七年度六星同窓会東海支部総会を五月二十四日例年通りサンプレスホテル名古屋支店に於いて、来賓に同窓会本部の本会長、宮下校長、県人会会長川端会長と会員五名の参加で、開催しました。総会は会長の司会で進行し、会長挨拶、

会計報告、会計監査報告がなされました。その後、来賓挨拶があり、第二部懇親会へと続きました。懇親会は幹事の大典さんの乾杯の後、来賓者からは百五十周年行事、学校の学生活動、県人会の今の状況が報告され、学生時に戻った気になり、大変会が盛り上がり、最後に会長の三三七拍子で締め、東海支部の増す増す発展を願う解散した。



金沢支部

昭和四十八年卒

松平 裕喜

金沢支部は五月二十四日の役員会を経て七月十九日にANAホリデイイン金沢スカイホテルで総会が執り行われました。総会には本昌康会長、宮下正司校長に御出席を頂き、講演会では昭和四十六年卒業の高島正行氏に「最近の日本の農業」と題し、お話をいただきました。

役員会も総会も年々高齢化となり参加者が減少している現状です。参加者の増加を目指し、農繁期を避けてはどうか等、来年に向けて検討する事となりました。創立百五十周年行事を迎えるに当たって支部でも協力は惜しまず益々の発展を願っている事を確認しました。恒例の翠星高校特産のクッキーとジャムをお土産とし、残りはその場で販売し瞬時に完売しました。



翠星トピックス

〈令和七年度農業クラブ成績〉



■第76回農業クラブ全国大会
令和七年度西関東大会結果

- プロジェクト発表会 分野Ⅲ類 優秀賞
食品科学コース和菓子班
「和菓子でつなぐ世代の絆」(白山市から全国へ届ける敬老の日の贈り物)
- プロジェクト発表会 分野Ⅰ類 出場
「石川の未来を創るイチゴ」(イチゴ高設栽培モデルの確立と校内六次産業化への挑戦)

- プロジェクト発表会 分野Ⅱ類 出場
「あつまれ! 100年の森」(高校生が実践する学校庭園再生と環境教育・防災教育・生涯学習の拠点づくり)

新制服 - 庭園によく似合う制服 -

令和八年度入学生より着用します。



発行所
〒924-8544 石川県白山市三浦町500の1
石川県立翠星高等学校内
六甲印刷
能登

ドバイから見える

世界情勢

―世界平和のために 知っていたらきたい現実―



六星同窓会 会長 本 昌 康

仕事の関係で、私は何度かドバイを訪れる機会がありました。イスラエルとパレスチナの戦いが激しく報じられる中、「中東は危険ではないのか」と心配されることも少なくありません。しかしUAEは、ロシア・中国・アメリカと良好な関係を保つ稀有な国で、巧みな政治と経済運営により、人口約一、〇〇〇万人で、その九〇%が移民といわれる小国ながら、平和と繁栄を実現している国です。

彼は現在、不動産会社でマンション建設と販売に携わっていますが、二年前まで五年間、金沢大学医学部で医師を目指して学んでいました。事情により日本を離れ、仲間の多いドバイで新たな人生を歩み始めたのです。金沢に縁のある方ということもあり、私たちはすぐに打ち解け、日本とドバイの未来について語り合いました。

暮らせる未来なのです。若い皆さん方には、ぜひ自分の目で世界を見ていただきたいと願います。さて、二〇二六年は本校開校百五十周年という、まことに意義深い節目を迎えます。一八七六年の石川県勸業所創設に始まる本校の農業教育は、幾多の困難な時代を乗り越え、多くの人材を輩出し、今日まで脈々と受け継がれてきました。その歩みは、先輩方お一人おひとりの支えによつて築かれてきたものです。



レインガーデン完成予定地

創立百五十周年に向けて



校長 宮下 正 司

六星同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動に対して多大なるご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。翠星高校(旧松任農業高校)は、日本で最も歴史と伝統ある農業高

校として、創立百四十九年目を迎えることができました。いよいよ、来年度、創立百五十周年を迎えます。諸先輩が築いてくださった本校の歴史と伝統の重みを胸に、日々の教育活動を展開しています。また、本校生徒は、石川県の農業教育を常に牽引し、卒業後は、地域の有為な人材として社会に貢献できる心豊かな人として高い評価を得ております。今後とも温かな眼差しで見守っていただければ幸いです。さて、今年一年を振り返り、近況報告とさせていただきます。春の始業式、入学式など様々な機会を通して、生徒たちには、「創立百五十周年を来年に控え、今年一年頑張ろう!」と語り掛け、全校を高めよう!と語り掛け、全校をあげて歩み始めました。野球部

をはじめとする部活動の活躍は、学校に大きな活力を与えてくれました。登山部は新人大会で団体優勝を成し遂げました。バドミントン部、卓球部、バレーボール部などソフトテニス部、サッカークラブなど運動部の生徒は、明るく元気な日々の活動に励んでくれています。華道部、吹奏楽部など文化部の活躍は、日頃の学校生活に彩りを添えてくれます。また、本校独自の農業系部活動である研究会も躍進しました。日本学校農業クラブ北信越ブロック大会では、プロジェクト発表会において三部門とも制覇し、北信越の代表として全国大会に出場するなど目覚ましい活躍がありました。また、生徒たちは学業にも一生懸命取り組んでいます。日々の勉

強だけでなく、資格の取得を目指して頑張った一年でもありました。特に、三年次生は、最上級生として、学校に勢いをもたらしてくれました。就職でも進学でも大変よく頑張りがございました。振り返ってみると、この勢いをもたせられたのは野球部であったと思います。躍動した選手の大活躍はもちろんですが、それを支えた応援団やチアリーダーの存在が大きかったと思います。声を張り上げて応援した団長や副団長。チアの女子生徒や吹奏楽部を含め力いっぱい応援した生徒たち。学校が「チーム翠星」として、ひとつになった瞬間でした。そして、この勢いは、二期、三期へと繋がっていききました。選

ばれる学校」になっています。少子化が進む昨今、中学生が進学したい高校として、倍率を維持している数少ない学校です。自分で選んだ学校、コース、分野だからこそ責任を持って学ぶ。「一生懸命、頑張る。この気持ちを絶対に忘れさせず、日々の指導に励み、教育活動を展開しています。翠星高校はさらなる高みを目指して、これからも頑張っていきます。最後になりますが、生徒及び教職員は創立百五十周年に向けて、一生懸命励んでおります。今後とも、皆様に母校の躍進をお伝えできよう頑張りますので、引き続き本校教育活動へのご理解、ご支援をお願い申し上げます。ご支援をお祈り申し上げます。

支部だより

関東支部

昭和三十七年卒 吉本 忍
関東支部第二十八回総会を、令和六年十一月九日に、例年通り主婦会館プラザエフに於いて、来賓に母校より谷校長先生、六星同窓会本部事務局より、安川先生、山口先生、白山市東京事務所村井所長に、会員八名の参加により開催しました。冒頭、司会者より、能登の地震と、豪雨による犠牲者と、この一年で故人となられた会員の「冥福を祈り黙祷をささげた後、谷校長には備蓄非常食の開発に力を入れた等の報告があり、議事に入り、活動報告、決算報告の議案を審議し、承認可決し総会は終了致しました。続いて懇親会に入り、所長より新任のご挨拶と白山市の近況報告を頂き、次に六星同窓会事務局からは記念事業の募金の状況が良くないので対策を考えているが、皆様にも今一度声掛けの協力依頼の報告があり、乾杯には、最年長の大石様のご発声で宴に入りました。話題は健康の話が多く、来年も元気で会えることを誓い、お開きとなりました。



東海支部

昭和三十七年卒 猿渡 孝之(旧姓加成)
六星同窓会東海支部の総会は、令和六年五月二十五日サンプレスホテル名古屋駅前店に於いて、来賓に母校より谷校長、同窓会本部より本会長、県人会西田会長、会員八名の参加により開催しました。開催に先立ち年次報告、昨年コロナ禍で総会が中止になった間に会員の出席に対する意欲が足りなくなり、会の存続が危惧されたとの報告、谷校長より学校の近況報告をいただいた。

金沢支部

昭和四十八年卒 松平 裕喜
一月一日、震度七の能登半島地震が発生し、九月には豪雨が降り未曾有の災害の一年になりました。被害に遭われた皆様方には心よりお見舞いを申し上げ、一日も早い復興を願っています。



翠星トピックス

《今年度の表彰》

- 第七五回農業クラブ全国大会
令和六年度岩手大会結果
プロジェクト発表会、分野Ⅲ類 優秀賞
「敬老の日に和菓子を贈ろう」大作戦!
「能登半島地震から学んだこと」



環境科学コース

環境科学コース
国家資格への挑戦!
測量士補二名 合格
三年 木谷 公介
三年 池田 裕紀



事務局だより

【本部】
【会計監査】
十月十一日(金) 本校視聴覚室
【総会】
十一月二十三日(土) 翠星高校
【支部総会】
金沢支部総会 七月十二日(金)
ANAホリデイ・イン金沢スカイ
東海支部総会 五月二十五日(土)
サイプレスホテル名古屋駅前店
十一月九日(土)
関東支部総会 主婦会館プラザエフ

※関西支部は令和四年度をもって解散しました。

創立150周年特設サイトを開設しました!!

Search boxes for '翠星高校 150周年' and '松任農業高校 150周年'. Includes a QR code and a note: '特設サイトはこちらを読みとって下さい▲'.



ロケットと自動草刈り機



六星同窓会 会長 本 昌 康

二〇二三年九月、私はスペースXの工場見学機会を得ました。かのイーロン・マスク氏の航空宇宙メーカーです。カリフォルニアの友人の

この一年を振り返って



谷 正 一 校長

日頃より、六星同窓会の皆様には、本校の教育活動に対して多大なご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

計らいでしたが、多くの機密を抱える企業だけに渡米前からの入念な審査を経た上での実現でした。私は経営には特別な関心を抱いていませんでした。見学中も「これは儲かっているのですか?」と案内役の若い日本人スタッフに尋ねたほどです。しかし彼は「はい、儲かっています」と即答するではありませんか。驚いた私は「自動草刈り機(テストラ)で儲けて、その資金で運営されているのでは?」と返します。

やテスラ以上の利益を上げていると思いますよ。」私は驚きスペースXに対する関心が一気に高まりました。その後、彼からイーロン・マスク氏のいくつものエピソードを聞きましたが、特に印象に残ったのはなぜ宇宙事業を選んだかという理由です。

周囲を見渡すと、私たちの生活には先人たちの「思いの深さ」が形となり、社会を進化させてきた事例が多くあります。例えば、私たちは四十年前前ポケットに収まる携帯電話を手にした。それが進化してスマートフォンは高校生にとっても欠かせないものとなりました。



そして、令和八年度を迎える創立百五十周年に向けて、現在、新制服の検討、各専門分野の百五十周年プロジェクト活動、校内組織の編成、生徒実行委員会によるPR活動など、様々な活動も進行中です。

100年の森 造園分野での取り組み



本校は二〇二六年に開校百五十年を迎えます。昭和五十一年に行われた百周年記念事業では、四つの様式の庭園(フランス・イタリア・イギリス・日本)が前庭として作庭されました。現在この前庭は、五十年近くの時を経て、鬱蒼とした状態となつていま

す。かつての造園科が造園コースとなり生徒数も減少し、管理が行き届かなくなつたためです。本校の正面玄関前の緩くカーブした道の両脇に列植されたタギョウショウも枯死が目立ち、名物景観としての尊厳が失われていきます。

そこで、百五十年周年記念を機に約五十年前に植栽された先輩方の熱き思いを五十年先の未来へ残すため「100年の森」計画がスタートしました。タギョウショウを含む前庭を改修し、管理しやすく見通しのよい、そして、生徒の授業や地域の方々の憩いの場「緑あふれる愛される庭」に生まれ変わろうとしています。

まず、私たちはタギョウショウの生育調査を行いました。調査資料は立花造園の社長で樹木医の立花栄志さんから頂いた「樹木地上部の衰退度判



掘り起こし



樹木のマーキング



根の調査



伐採後の樹木

環境科学コース造園分野 講師 高田 葵
平成二十六年卒業 総合グリーン科学科

定)をもとに実施しました。衰退度は、枯死寸前(V)、著しく不良(IV)、不良(III)、やや不良(II)、良(I)の五段階で評価されます。

五十八本のタギョウショウを調査したところ、Vが七本、IVが十二本、IIIが十五本、IIが十三本、Iが四本ととても悪い結果でした。原因は、状態の悪い粘土質の栽培土壌、そして広がりすぎた樹冠同士や繁茂すぎた日本庭園により日照が遮られるためだと考えられます。

そこで、科目「総合実習」で生徒と共にタギョウショウの伐採を始めた。景観を損なわないように選定しながら景観を損なわないように選定しています。今後は伐採と並行し、前庭全ての残すべき樹木の選定を行う予定です。

私が翠星高校生の頃に、四つの様式の庭園を「憩いの場」として利用したことはありませんでした。農学分野で学んだ私ですが、二年前から「造園分野」を担当したことで庭園の魅力を知りました。生徒が気軽に入りたくなるような、遊びたくなるような、そんな「庭に触れる体験」ができる「魅力ある100年の森」の完成を目指し、生徒と共に頑張っていきます。

私の思い

昭和四十七年卒 農業科 村田 興好



私は、稲作農家の長男として生を受け、その瞬間に高校は「松農」と決まっておりました。

(このような方は多いと思います)が、家には耕運機はありませんが、農作業はほとんど人力です。鋤によるあぜ塗り、近所の応援による梓回し・田植え、手による草取り、らちうち、鎌による稲刈り、天日干し等々今では考えられない作業の連続でした。学校から帰宅すると割り当てが有りました。農業は過酷であり、幼いころはサラリーマン家庭をうらやましく思ったこともありました。

しかし、夢と希望を持ち石川県立松任農業高校「農業科」に入学することとなり、砂利道を自転車です三年間通い、皆勤することができました。あれから五十二年経ち、定かでない記憶かもしれませんが、三つのことが思い浮かべられます。一つ目は校歌と応援歌の地獄の指導(特訓)です。五月に開催される高校相撲金沢大会(今年は百七回目を迎えます)の為の練習でした。一年生全員が体育館に集められ、とにかく大声を出せとの応援団員の罵声が飛び交っていました。小心中の私としては苦痛の時間でしたが、そのお陰で校歌も応援歌も覚えられました。二

六星賞受賞

総合グリーン科学科 食品科学コース 三年 平田 歩美



日本学校農業クラブ全国大会のプロジェクト発表会等において、優秀な成績を修めた。

- 第七二回日本学校農業クラブ全国大会プロジェクト発表会 Ⅲ類 最優秀賞、文部科学大臣賞
- タイトル「HACCP導入」応援団！農業高校生が食品の安全安心を考える」
- 第七三回日本学校農業クラブ全国大会プロジェクト発表会 Ⅱ類 優秀賞
- タイトル「命名！蔵出し革命 酒米削り粉のポテンシャルの証明」
- 第五十回毎日農業記録賞 優秀賞
- 第六回明日の農業コンテスト 銀賞
- 第七四回日本学校農業クラブ全国大会意見発表会 Ⅲ類 優秀賞
- タイトル「私の夢は「令和の水戸黄門」食の安全を守るため世界を歩く」

白山市から新文化を発信！ 敬老の日に和菓子を贈ろう！

食品科学コース 教諭 金田 侑也
平成二十七年卒業 総合グリーン科学科



和菓子店から「若者の元和菓子店から「若者の和菓子離れや後継者不足に悩んでいる」と相談を受け、若者への和菓子の普及を目的に活動している。白山市内の和菓子店でキャンペーン商品を販売し、年長者を敬う敬老の日に「若者から年長者へ和菓子を贈る」新文化の定着を図り、若者への和菓子の普及と和菓子業界全体の活性化を目指す「敬老の日キャンペーン」を企画した。白山市地産地消課・地元和菓子店九店舗・イオンモール白山と協力し、「敬老の日キャンペーン」を開催できた。今後は全国展開を目指していきたい。また、地元和菓子店「南彩霞堂」と連携し、白山市産「おまつと牛乳」と「翠星産イチゴジャム」を合わせた、莓ミルク味の琥珀糖の協働開発を行った。文化祭やいしかわ百万石文化祭二〇二三で販売ができ、地域の方々に地元食材の魅力発信・和菓子の普及ができた。キャンペーンの開催や和菓子の開発・販売など一つひとつの物事について、生徒の頑張り、先生活や地域の方々のご協力があった、成果に結びついたと考える。また、和菓子部での出会いから地元和菓子店への就職に繋がることができた。今後も地域との繋がりを生徒と共に持ち、学校内外へ和菓子の魅力を普及し、日本の伝統文化和菓子を守り続けていきたい。



琥珀糖協働開発



「そくさいな」お披露目会



和菓子部 ロゴ



「そくさいな」ポスター画像

家業に携わる役割

昭和四十七年卒 農業科 谷本 安尚

六星同窓会の皆様には、益々ご健勝のことと存じます。

実家は專業林業の六代目の長男として生まれ、子供の頃から高校は「松農」と聞かされていました。農業科を昭和四十七年に卒業、家業の後継者として東京農業大学林学科に進学、卒業後は県森林組合連合会に勤務しましたが中学校、高校と飽きもせず大学でもバレーボール部に所属していました。休日、祭日は後輩である母校の練習に参加し、部員に情が移り教員を志望しました。翌年中学校に勤務することになり、女子バレーボール部の顧問となりましたが、十分な指導ができず、目標とした大会で敗退し選手に悔しい思いをさせてしまいました。この悔しさを胸に翌年、小松大谷高校(旧北陸大谷)に体育館が建つとのことで、女子バレーボール部顧問として採用され、平成元年には全国選抜大会に出場することができました。また、北京、上海にて開催の「日中友好スポーツ・文化交流会」に招待され参加することができました。また平成三年度に開催される石川国体強



日中友好スポーツ・文化交流会



金城私立高等学校男女バレーボール日本代表団

化の為、「県選抜チーム」のコーチとして、京都、北海道、福岡、石川国体にも携わることができました。平成十九年には全国私立高校から将来有望な選手男女各十三名を選抜した「全国私立高等学校男女日本選抜チーム」(後に全日本で活躍した選手も参加)が結成され、女子コーチとして「日の丸」を胸に上海・杭州の大会に参加し、全勝で帰国することができました。全国私学バレーボール連盟常任理事(十五年)と教頭を務めた後退職するまで、母校である松農の先生方を始め、バレー関係者として勤務先でも多くの方々にご指導ご鞭撻頂き、感謝の気持ちで一杯です。

退職後は六代目として家業である林業に従事しようと、山林管理のため林業関係の研修等に積極的に参加しました。現在「かが森林組合」副組合長を拝命され、これから私のできる役割は、山林を通して過去を知り、将来を考えていくことが必要と考えています。次世代に残していけるよう、今一度取り組んでいきたいと思っております。

最後に母校、六星同窓会の今後益々の発展と会員の皆様の御多幸を心より祈念致します。

支部だより

関東支部

昭和三十七年卒

吉本 忍

関東支部第二十七回総会を令和五年十一月十一日に、主婦会館エフ・プラザに於いて、来賓に母校より谷校長先生、同窓会本部より本会長と、同事務局から安川先生と山口先生、白山市東京事務所の古屋所長を迎え、会員八名の参加により開催しました。議長よりコロナと高齢化の心配も有りましたが、予定していた行事もほぼ開催出来たとの報告があり、谷校長より学校の近況報告を頂き、本会長と安川先生と山口先生から創立150周年記念行事の進捗状況の報告を頂きまして、議事に入り「事業報告」「収支決算報告」を満場一致で承認可決し、総会は終了しました。引き続き懇親会に入り、古屋所長より白山手取川がユネスコ世界ジオパークに認定されたことのご挨拶後、乾杯の発声で懇親会に入り、会員の学生時代の話で盛り上がり、次は恒例の余興と「祝い船」の合唱で又盛り上がり、来年も頑張ろうと誓い、お開きとなりました。



関西支部

昭和二十九年卒

北本 幸雄

支部だよりの冒頭から、この様な報告で大変心苦しく申し訳ありません。これが最後の総会、そして慰労会を兼ねた集まりです。二月十六日(木)に宝塚温泉で一泊することとなりました。ゴルフ、ハイキング、歩こう会、社会見学等の行動。通過点でしかなかった、近くて遠い存在の宝塚、今回初めての行き先となりました。駅での昼食をすませ、ホテルの入館時間が早いので、市内の散策など宝塚大劇場に向かう「花の道」を色々と趣向をこらした店

舗を眺めながら、街を二分する武庫川に掛る曲がりくねった橋(宝来橋)を渡り、橋のたもとの「ホテル若水」に到着。入浴後夕食、窓から橋の上の赤いランプが白いライトに消されてゆく様をみながら、この空間を愉しく思いながら、時間をすくすく出来ました。翌日は次の再会を楽しみにお別れしました。

東海支部
昭和三十七年卒 猿渡 孝之(旧姓加成)
令和五年度六星同窓会東海支部総会を五月二十七日、例年通りサンプレスホテル名古屋駅前店に於いて、来賓に同窓会本部より本会長、谷校長、県人会上野会長、会員八名の参加により開催しました。先ずコロナ禍で三回中止となった間、故人になった会員に黙とう後、本部長の本昌康様、谷正一校長、上野健県人会会長より開校150周年の話、学校の近況報告、県人の集いを十月一日に開催する向きの報告をいただきました。

続いて「事業報告書」「収支決算書」を審議していただき、承認いただきました。引き続き懇親会に入り、来賓三名による「ふるさと」の話でもあり、会員より令和六年度の総会の準備を早くして、コロナ禍で冷えきった日常生活から元気を取りもどし、笑顔で会える日を楽しみに、年長の苗代様の一本締めでお開きとなりました。

金沢支部
昭和四十八年卒
コロナウイルスに対する規制が五類に緩和された事により、六月の役員会を経て総会を開催



松平 裕喜

のような同窓生は少なくないように思う。そして今、その母校が再び変わらねばならないときがあると強烈に思い始めている。

農業高校では生徒が集まらず存続が厳しいと考えた当時の先生方は、翠星高校と校名を新たにし、総合グリーン科学科として農業も食品も環境も広く学べるカリキュラムへとずいぶん思い切ったことをしたものだ。この改革が功を奏し定員割れが続いていたが三年ほどは定員割れが続いていたが三年ほどは生方に限らずとも母校の未来に不安を抱いてしまふ。令和四年に石川県で生まれた七、〇七五人がやがて県内全域の高校に進学と考えれば、今ある高校のいくつかは無くなると考えるのが自然だ。

する事が出来ました。

総会は七月七日ANAホリデイイン金沢スカイに於いて本昌康会長、谷正一校長をはじめ母校関係者の方々に御出席を頂き、昭和四十八年卒の元尾文二氏に講師をお願いして松農在学中から教員生活を勤めた中で心に残った事をお話いただきました。安川先生からは第七回「食品産業もつたいない大賞」で農林大臣賞を受賞した事など生徒の栄えある功績の報告をいただきました。

近年、総会会場に生徒が作ったジャムやクッキーを用意してもらって、総会出席者に販売して好評となっております。

今年の総会で支部長の 大蔵捷直氏が退任され、新支部長に松平裕喜が任命されました。

何卒よろしく御願ひいたします。



翠星トピックス

《今年度の表彰》

いしかわエコデザイン賞
教育・社会活動部門 銀賞
「農業高校が挑む「食」と「農」と「環境」のエコ活動」

農業クラブ 全国大会
意見発表会Ⅲ類 優秀賞
第三年 平田 歩美

第十二回(令和五年)ジュニア文芸賞
賞受賞作品 優秀賞
一年 飛田 卓羽



発行所
〒924-8544 石川県白山市三浦町500-1
石川県立翠星高等学校窓内会印刷部
六 星 だ よ り
能 登

創立百五十周年をチャンスとする



六星同窓会 会長
本 昌 康

翠星高校 この一年を振り返って



校長
谷 正 一

令和6年度能登半島地震で、お亡くなりになった方に対しご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に対してお見舞い申し上げます。

六星同窓会員の皆様には、日頃から本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

時代の流れに対応し、幾多の変遷を経ながら永き歴史を紡いできた本校は、今年で創立百四十七周年となりました。これは、石川県内で最も

長い歴史を持つとともに、日本で最も伝統のある農業高校です。さらに令和八年度には、創立百五十周年の大きな節目を迎えるにあたり、今年度は、創立百五十周年記念事業実行委員会を設立し、学校、同窓会、そして地域が、手を取り合って、未来につながる農業高校となるような事業の実現に向けて取り組んでいるところです。学校WEBページのリニューアル、特設サイトの開設など積極的に情報発信いたしますので、同窓生の皆さんにもぜひとも関心を持っていただきたいと考えています。

さて、学校生活について話を移しますと今年度は、新型コロナウイルス感染症の分類が、重篤性の高い二類相当から五類に変更されたこともあり、全体的にコロナ禍以前の生活に戻りつつある一年でした。学校でもマスクの着用が任意となり、日を追うごとにマスクを外して学校生活を過ごす生徒が増えていきま

に心配していた修学旅行も無事六月に実施でき、九州の旅を思う存分満喫してきました。そして農業高校においては最も忙しなる収穫の秋、十月の各週末には、石川の農林漁業祭りをはじめ、地域の様々なイベントへの参加、十月二十八日には、地元白山市のイオンモール白山において「いしかわ産物教育フェア2023」が本校を主幹校として盛大に開催されました。専門教育を行う高校・特別支援学校が一堂に会し、日頃の学習成果を県民に広くアピールする県の事業です。研究発表や作品展示・体験コーナーとして生徒たちが作った農産物・加工品などイオンモール白山をフル活用したイベントです。本校生徒・教職員は、司会進行や会場設営など運営に多くが携わり、来場者のみならず、他校から参加した方々からもその働きに高い評価をいただきました。令和六年度も十月二十七日(土)に同じ会場で開催が決まっています。

る食品産業は鉄鋼に次ぐ規模であり、そんななかでも最新の翠星高校は食品科の活躍が素晴らしく、過去五年の間に文部科学大臣賞を四度、農林水産大臣賞も受賞するという輝かしい歴史を創っている。かつての先生方が起こした改革が今の本校を支えてくれていると思うと感慨深いものがある。

環境についても、地域をつなぎ癒しの空間提供するランドスケープの重要性はますます高まっていくことは間違いない。そう考え創立百五十周年記念事業の一環として散策・回遊性に乏しく老朽化が進む校内の庭園を整備する「100年の森」計画が進行中であることをこの場でお伝えし、ぜひとも皆さまのお力添えをお願いしたい。

このように生活に欠かせない三つの産業に特化した重要な教育機関が無くなるはずはない。無くしてはならないのに人気がないところに今年度改革のメスが必要だ。例えば、こ

の学校に集うのは高校生に限らず、小学生や中学生が「農業・食品・環境」の重要さと楽しさを学びに来る場としたらどうだろうか。さらには大人たちも自家菜園や庭をつくりたいと学びに来る。

子供たちが栽培を学び、ジャムやシロップ、ケーキづくりを習う。大人たちは大豆の育て方を知り、味噌や醤油のつくり方を身につける。菜園で育てた野菜を自家製の調味料で料理する。

誰もが気軽に集い、学が楽しさと育て味わう喜びを知る。これほど豊かな、理想の食生活はないのではなからうか。教える喜びも格別なものとなる。

子供たちの教育と地域の皆さんの心豊かな生活に貢献でき、また憧れの場所となるような翠星高校にすべく百五十周年を再び訪れたチャンスとして大改革を起こしていただくことを期待し、最大限のエネルギーを送る。

躍を見させていただき、生徒の直向きな努力と創造力に感動し、農業教育の素晴らしさを感じずにはいられません。

最近のビジネス用語で「グリップ」という言葉を知りました。意味は、「やり抜く力」「粘る力」とされています。「困難に遭ってもくじけない闘志」そんな心が、本校の教育活動を通じて生徒たちに育まれていくことが農業高校の姿であると考えています。

翠星高校の活躍は、頑張り続けてくれた生徒はもとより、指導してくださった先生方、見守り支えてくださる保護者の皆様、そして本校教育活動を様々な形でご支援くださった同窓会の皆様方のおかげだと本当に感謝しております。今後とも、皆様にも母校の躍進をお伝えできるよう頑張っておりますので、引き続き本校教育活動へのご理解、ご支援をお願い申し上げます。同窓会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

事務局だより

《本部》

【会計監査】

五月十日(水) 翠星高校

【総会】

六月二十五日(日)

グランドホテル白山

《支部総会》

金沢支部総会 七月七日(金)

ANAホリデイ・イン金沢スカイ

東海支部総会 五月二十七日(土)

サンプレスホテル名古屋駅前

関東支部総会 十一月十一日(土)

主婦会館プラザエフ

※関西支部は令和四年度をもって解散しました。

創立150周年特設サイトを開設しました!!



翠星高校 150周年 検索
または
松任農業高校 150周年 検索
(本校ホームページからもご覧頂けます)



特設サイトはこちらを読みとって下さい▲

命名！「蔵出し革命」 酒米削り粉のポテンシャルの証明



石川県は十一年か
け、大吟醸酒用の酒
米新品種「石川酒
六八号（愛称「百万石乃白」）を開発し
ました。日本酒は、酒米（酒造好適米）
を主原料とし、玄米表面を削って得た心
白部分を利用していきます。精米の際に出
る削り粉は「糠（赤・中・白・上白）」
として業者に処分され、飼料や低価格な
煎餅等の原料となっています。地元酒蔵
から「百万石乃白削り粉」の商品開発依
頼があり、上白糠（百万石乃白削り
粉）の活用方法確立と食料自給率向上を
目的とし、研究を開始しました。



ラーメンやうどん、スポンジケーキ、
クッキーなどの試作や物性試験の結果、
酒米削り粉は「非加熱で糊化し粘性が出
る」と判明しました。品質に影響しない
程度の酒米削り粉
を輸入小麦粉の代
替とすることで、
日本の食料自給率
向上に寄与できる
と考えられます。
商品化に当たっ
ては、卒業生に多
大なご協力を賜
りました。卒業生
のパティシエ早川
崇史さんには、ク
レープやガレット
の製造指導をして
頂き、協働開発し
た「SDGs 酒米

食品科学コース 教諭 安川 三和
平成十一年卒業 園芸科学科

「蔵出し革命」と名付け、現在も食品
科学研究会生徒と普及活動に取り組んで
います。
おかげさまで、酒米削り粉商品が地元
だけでなく全国にPRすることができま
した。卒業生の強力なバックアップに感
謝申し上げます。
と共に、脈々
と流れる同
窓会の絆の強
さを感じるこ
とができてま
した。今後も卒
業生の一人と
して母校を盛
り上げていき
ます。



「草花の温室は快適で良いですね。専攻す
る植物を決めなければならぬのです。」
「宮子君、ちよつとこつち来てみ、今シク
ラーメンの定植作業をしている最中や。将来人気
が出る鉢花やと思ってるがや。君、シクラメン
やつてみんか。」で、決定しました。
シクラメンの研究内容は、「シクラメン培養
土の物理性・化学性と生育の関係」と決定し、
当日より開始となりました。この研究は、二年
生、三年生の時も続け、昭和四十五年十月五日
にプロジェクト発表Aの部で最優秀を受賞しま
した。



シクラメンとの出会い

昭和四十六年卒 農業科
六星同窓会副会長 宮子 豊吉



私の父は、私が生ま
れて四か月の時、ある
日突然他界しました。
母は大変苦労したと思
いますが、ご近所や親
戚の応援を頂きながら
農作業に頑張り、四歳年上の姉と私を、短大ま
で送ってくれ、とても感謝しています。
小学校は田んぼ道を片道一kmほど歩いた
所であり、どんなに強い雨の日も、風の日も、
雪の日も、歩いての通学です。三年生の時、田
植えも終わり青田になった頃、畦畔に母が移植
して穴をあけ、大豆の種を三、四粒ほど播種
して見ました。一週間ほど経って、学校の帰ら
道、種を蒔いた所に小さな葉っぱが出ていたの
で、近くの田んぼで草取りをしていた母に聞い
たら、「これは大豆の新芽で、子葉や」と言わ
れ、日に日に大きく成長していく大豆に感激
し、植物と生物が大好きな少年になりました。
植物の大好きな宮子少年も中学生となり、
将来は施設園芸を職業に決め、理科と数学が大
好きで、相変わらずの国語と英語は嫌いで、社
会は暗記すれば点が取れると割り切り、部活は
バスバンド部に入学してトランペットの担当
でしたが、私には音楽的才能は無く、一年で退
部。二年生になって新しくサッカー部が出来、
「農業は体力勝負」だからと入学し、三年生に
なつてからは、松任中学校キャプテンで活躍し
ました。

昭和四十三年四月に松任農業高校農業科に
入学、園芸コースに所属し農場実習もいろいろ
体験し、七月中に何を専攻するか決める日とな
り、トマトが栽培されているビニールハウスを
見に行きました。その日は太陽がキラキラの暑い
日、サイドのビニールは開けてあるのに入口の
扉を開けて中に入ると「暑い・暑い
・ここはダメだ」。
気を取り戻して、校舎正面玄関前の草花の
温室を目指した。温室を見渡すと、天窓は全
開、横窓も全開、室内の寒冷紗の内張が施さ
れ、風で揺れている。室内に入って「ワー涼

しい」と感激していると、実習教諭の中田実先
生に「宮子君、どうしたんや」と聞かれ「私は
施設園芸を職業としたいのですが、トマトハウ
スの中に入ったらくて...」
「草花の温室は快適で良いですね。専攻す
る植物を決めなければならぬのです。」
「宮子君、ちよつとこつち来てみ、今シク
ラーメンの定植作業をしている最中や。将来人気
が出る鉢花やと思ってるがや。君、シクラメン
やつてみんか。」で、決定しました。
シクラメンの研究内容は、「シクラメン培養
土の物理性・化学性と生育の関係」と決定し、
当日より開始となりました。この研究は、二年
生、三年生の時も続け、昭和四十五年十月五日
にプロジェクト発表Aの部で最優秀を受賞しま
した。



第七三回日本学校農業クラブ

全国大会北陸大会開催
生徒実行委員長 総合グリーン科学科
吉村 絵里



昭和から連綿と受け
継がれてきた農業クラ
ブ全国大会が四九年ぶ
りに石川の地で開催さ
れました。本校を中心校とし、北陸三県
一、二校一七〇名の農業クラブ員が一致
団結し、準備を重ねてきました。北陸大
会開催にあたりまして、六星同窓会様か
ら多大なご支援を賜りましたことをここ
に感謝申し上げます。北陸大会を機に今
後も翠星高校および農業クラブが繁栄さ
れることをお祈りしています。

六星賞受賞

総合グリーン科学科 食品科学コース
三年 佐藤 楓



日本学校農業クラブ
全国大会のプロジェクト
発表会等において、
優秀な成績を修めた。

令和二年度地産地消等優良活動表彰
教育関係部門 文部科学大臣賞
第七二回日本学校農業クラブ全国大会
プロジェクト発表会 Ⅲ類 最優秀
賞・文部科学大臣賞
第七三回日本学校農業クラブ全国大会
プロジェクト発表会 Ⅱ類 優秀賞

ボランティア活動を楽しむ

昭和四十年卒 農業科
六星同窓会常任理事 佐野 烈



私の教員生活のス
タートは柳田農業高校
で、主に野菜担当を三
年勤め、母校松任農業
高校へ当時の校長（橋
本竜太先生）に招かれ
石川県造園研究会、日本造園修景協会石川
県支部の設立にも参加しました。それらのご縁
もあり本校教頭を務めた後に、金沢学院短期大
学非常勤講師に招かれ、造園設計を担当し併せ
て石川県森林公園囀託としてインフォメーショ
ンセンターと野外活動施設館・森林学習展示館
の館長を兼務して森林の大切さ、緑と文明につ
いての講習やガイド、展示等を担当してまいり
ました。これらの勤務を終えた後は地区・地域
の様々な活動に参加してまいりましたが、近年
は民間ボランティア団体「金沢城・兼六園研
究会」に入会し活動を行っています。

この団体は、平成三十年設立で金沢城・兼
六園を愛し、その魅力を学び伝えることを目的
にした団体で現在、城と庭の探究講座「金沢
城大学」を終了した一八名が活動していま
す。①学ぶ活動では、講演会、研修旅行、学習
会、研究発表会、グループ活動、②伝える活動
では、兼六園・金沢城案内、高砂大学院兼六園
講座・ガイド、公民館などの各種団体の社会教
育、広報活動では研究発表文集発行、会報発行
そして交流活動では、大名庭園民間交流協議会
（この三年間は新型コロナウイルスの感染拡大により開
催中止でしたが来年は香川県高松市で開催の予
定です）
この月末には、今年度入会グループの学習
会で「日本の庭園様式の変遷と特徴について」、
お話しするため、自らも楽しみながら現在パ
ワーポイントで映像を作成中です。

多機能コンテナで アグリイノベーション！ Welcome to 「箱システム」



生物資源コース 農学分野
教諭 川端 伸



「箱」とは、軽トララッ
クの荷台に木造コンテナ
を載せ、農産物の加工作
業や販売活動に活用する
新しい農業モデルです。
○箱の○には、作業箱・
販売箱などどんな箱にも
なるということです。○
箱の中には農産物以外に
も人も入ることもでき、自動運転中の農業
機械の監視と他の作業も同時にできます。
六星同窓会様からご支援を頂き、今年度つ
いに○箱を完成させ、イオンモール白山で
の販売や校内販売を行うことができました。
感謝申し上げます。



少年老い易く学成り難し

昭和三十四年卒 農業経済科卒 前田 勝紀
六星同窓会理事



今は進学先が偏差値で
決められている傾向があ
る。私の入学した昭和三十
年の農業科は、農家の長
男が殆ど。我が家の耕作
面積は加賀平野の分家の
分家位。この大地の中に
来たのは間違いないと思
う。おまけに中学校の英語は
ABC位しか習っておらず、入試の選択科目は前述
の様で農業で受験。どの顔も賢そうで、どここの
トップとかで、こいつら天才かと思うくらい。一年生
の最初が、グリーンキャタピラから始まった英語は暗
黒の時間。訪れるものは、浅野川の急流を上流に向
かって泳ぎ鍛えた体で、後に走る（陸上）、泳ぐ（平
泳ぎ、滑る（スキ））の三科目で果体に出た馬力。
その様な出来の悪い私が三十三歳後半に韓国や台
湾の担当になり、出張するのはどの様な韓持ちや台
理解出来ると思う。しかし、人間真剣に成ると解
決出来た。何とかその国の言葉を理解し理解させ
られるのは三ヶ月。その後、国際交流の団体の
ボランティア事業に携わるとは予想だにしないかつ
た。私の様な凡人以下の者が在校生を見たとき、
パソコンと同じで機能があるのに使われない。皆さ
んは能力があるのですから、今のうちにうんと鍛え
て下さい。その私の努力の源に成ったのは、副知
事が来校しその時、三ヶ月に二冊三年間では十二
冊の専門の本を読めば誰にも負けない専門家に成
れると教わったことと、絵の泉先生から、「習」と
言う字は、誰は生まれたときは黒に近い色で、羽
を一生懸命に動かす努力をする事で白くになると教
わったことだ。交渉力が評価され、四十歳の
時、石川県庁や金大移転、先端大学、看護大学や
新幹線等の事業に携わることになった。

東京農大に進む事になったが、当時は単科大学
で奨学金は出せませんと聞き、諦めました。その
思いは息子（六十年造園卒）が叶えて呉れました。
松農を選んだ理由は、卒業しても皆さんが交流し
て居るのが魅力だったこと。
国の根幹は食糧と防衛。そして人材育成であり、人
生一〇〇年の時代、国際交流を通じての人材育成を
まだ有る人生で尽くしたいと努力中。翠星高の皆さん
の貴重な人材としての活躍を期待しています。

支部だより

関東支部

東 建路

関東支部第二六回総会は、令和四年十一月十二日JR四ツ谷駅前、主婦会館に於いて、来賓に母校より谷校長先生、同窓会本部より本会長、白山市東京事務所古屋所長に会員七名の参加により開催しました。司会者より、三期間に故人になった会員への黙とう後、議長よりコロナ禍で総会が二回中止となった間に会員の高齢化が進み出席者数が一桁と言う組織の弱体化の様相に危惧を報告。校長先生からは母校の農業クラブ入賞報告。会長より就任の経緯や同窓会の活性化と賑わいへの応援、創立百五十周年記念事業への取組、安川先生と自社とのコラボ商品（現品は、会員にお土産として配付）の開発販売等母校を上げたなどの抱負のご挨拶。今総会の議長提案の第一、第三議案は満場一致承認可決し総会は終了しました。引き続き懇親会に入り所長が白山市の近況報告のご挨拶後、会員の乾杯発声により懇親会へ、来賓三氏によるふるさとのおもやま話と余興に大喝采。宴たけなわの中関東一本絞めでお開きとなりました。



関西支部

松永 潔

令和四年度六星同窓会関西支部総会を十月二十二日に例年通り、梅田ホテルグランヴィア大阪内「なにわ食彩しずく」に於いて、六星同窓会新会長 本昌康様と、母校より学校長 谷正一先生にご臨席いただき

開催いたしました。

新会長 本昌康様のご挨拶に続き、谷正一校長先生より学校の近況報告をいただきました。

続いて「事業報告」「収支決算報告」を致しまして、ご承認いただきました。六星同窓会関西支部の役員会で度々検討してきました結果、今期の二〇二三年三月三十一日の決算を最後に関西支部を閉鎖することに決定しました経緯の事情報告を致しました。関西支部は六〇年の歴史があり、非常に残念でなりません。現在の総会に於いては八十三歳以上の高齢の役員の方のみの参加となり、継続するには無理と役員会で判断致しました。



東海支部

昭和三十七年卒 猿渡 孝之 (旧姓加成)

今年度の「六星だより」に良い報告がしたく、我なりに活動をしてきましたが、安全対策上、集合での活動は控える様言われ、やむなく今回は支部としての活動報告はありません。こんな状態が、いつまでも続くのでしょうか。案じています。

金沢支部

昭和四十八年卒 窪 正之

新型コロナウイルスにより止まった三期間。例年五月に役員会を開催し七月初旬に総会を開催していましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い役員会並びに総会を

三年間も残念ながら中止としております。

支部運営で常に相談する副幹事の二名方も感染するという、身近な新型コロナウイルスの存在になりました。

令和四年度金沢支部の役員会並びに総会開催について、先送りしがたい報告事項や議決事項などあり、新型コロナウイルスの五類へ移行検討やマスク不要論等と、威嚇が薄らいでいることも後押しし、総会開催に向けて準備を進め動いております。

コロナ禍が早く収束し平穏な日常を取り戻し、会員皆さんの元気な笑顔で会えることを楽しみに、令和四年度の総会を開催したいと思っております。

翠星トピックス

沢山の表彰を受けました！

《今年度の表彰》

農業クラブ 全国大会	優秀賞
プロジェクト発表会Ⅱ類	平田 歩美
食品科学研究会	上谷 菊環
意見発表会Ⅱ類	佐藤 楓
農業鑑定競技会	優秀賞 中山 柚奈
園芸分野	優秀賞 中田 堯
食品分野	原田悠衣花
造園分野	長原 蒼桜
第一三回全国和菓子甲子園 特別賞 (三位相当)	菅原 優希
食品科学コース	田邊 陸
第五〇回毎日農業記録賞	平田 歩美



農業クラブ全国大会の表彰状



全国和菓子甲子園特別賞受賞

《資格取得》
測量士補試験合格
環境科学コース環境設計分野
三年 山上 翼

事務局だより

【本部】

【会計監査】
六月十一日 (土) 翠星高校
【総会】
十一月二十三日 (水・祝)
グランホテル白山

【支部総会】
金沢支部総会 中止
東海支部総会 中止
関西支部総会 十月二十二日 (土)
梅田ホテルグランヴィア
十一月十二日 (土)
主婦会館プラザエフ



発行所
〒924-8544 石川県白山市翠星高等学校内
石川県立翠星高等学校印刷部
〒924-8544 石川県白山市翠星高等学校内
石川県立翠星高等学校印刷部

開校一五〇周年に 向けて



六星同窓会 会長
本 昌 康

石川県下でもっとも歴史ある高校として、あるいは全国で一番早く創設された農学校として輝かしい歴史をもつ本学が二〇二六年に開校

翠星高校 この一年



校長
谷 正 一

同窓会員の皆様には、日頃から本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。昨年四月、本校の教頭から校長として着任し、講師・教諭として二六年、教頭三年で、今年度が松任農業高校、翠星高校合わせて本校の勤務三〇年目を迎えました。

この一年を振り返ると、最も大きな

一五〇年を迎えます。校長室に並ぶ歴代校長の肖像のなかには鬚髪で刀を携えた初代吉崎宇一先生のものがあることをご記憶の方も多いかと思いますが、改めて本学の歴史の長さを感じ入ります。

本来一五〇周年記念は学校行事として行われるわけですが、翠星高校で、松任農業高等学校で、更には松任高等学校、松任高等学校で学ばれた多くの卒業生を擁する六星同窓会が祝意を表することは会員の総意であると思います。同窓会といたしまして一五〇年の節目を祝い、続く二〇〇年に向かい更なる母校発展のために翠星高校を力強く応援し

てまいる所存です。

そこで教職員の皆様方に記念事業としてご要望を募りましたところ、校舎正面に広がる庭園整備の申し出をいただきました。当時の記録「開校一〇〇年記念誌」には、この庭園は一〇〇周年記念行事の折に造園実習見本園として四つのテーマ(フラスコ・イタリア・イギリス・日本)をもつた庭園が企画されたものであり、費の縮減で手の届かなかった箇所を一〇〇周年記念事業費をもって完成を見たことと記されております。それから五〇年近い時を経て庭園は今後の管理が思いやられるような佇まいの状態となっており、近所から苦しいもいただいたりも聞いております。私も何度か庭園に足を踏み入れましたが、各様式の庭園として整備されてきただけに回遊性に乏しく樹木の剪定や刈込も特殊でそれゆえに管理の大変さや感も取ることができました。これを回遊性のあるものとして散策する人の姿が見通せるように変えていけたら新たな魅力的な

環境が生まれると感じたのでした。これらの植樹が諸先輩方々のご努力でなされたことを思いますと、なんとしても次の二〇〇周年に向けて残さねばならない、生徒にとっても更には地元白山市にとっても居心地よく緑あふれる魅力ある場として再開発させたという思いが募ってまいりました。五〇年を経た木々をこれから先も育て続け、一〇〇年を目指し庭から森へと公園化を進めていきたいとの未来図を描いてみたのです。生徒が屋外で集い高校生活の思い出として記憶に残る風景を創造し、これまでこの地で培われてきた「記憶と命ある財産」を受け継ぎ未来に繋いでいくための前庭改修計画です。

これを残さねばならないの思いを強くしたのは「開校一〇〇年記念誌」に記録された寄付金総額の大きさと暮らすことながら、募金対象者九五〇〇人



現在の校庭



3年後の校庭の完成予想図

ともに自己有用感も高まったのではないかと思います。大会終了後、全国の農業高校の先生方から「大変すばらしい大会でした。ありがとうございませう」というお礼の言葉をたくさんいただき、大会が成功裏に終わられたことを実感しました。そして、六星同窓会からも多大なご支援をいただき深く感謝申し上げます。

また、今年度は、コロナ禍で大きな制限を受けてきた学校行事である修学旅行及び文化祭の実施も大きな出来事でした。六月に一度の感染拡大による延期を経て三年生が、十一月に中学時代に修学旅行を経験できなかった二年生が初めて最後の修学旅行を実施されました。旅行先は、今回からいずれも九州、多くの生徒たちにとって、初めて訪れた場所になりました。両学年それぞれの思いで、充実した修学旅行を満喫しました。

そして、十一月の文化祭では、コロナ禍で控えていた三年生の模擬店を含め、ほぼコロナ禍以前に近い企画を感染防止対策を講じながら実施しました。それぞれの企画に取り組み生徒は仲間との協働を通じて、達成感とともに自己有用感を得られたのではないかと思います。

コロナ禍三年目での翠星高校の活躍は、頑張り続けてくれた生徒はもとより、指導してくださった先生方、見守り支えてくださった保護者の皆様、そして本校教育活動を様々な形でご支援くださった同窓会の皆様方のおかげと本当に感謝しております。どのような状況下にあっても、皆様に母校の躍進をお伝えできるよう頑張り続けてまいりますので、引き続き本校教育活動へのご理解、ご支援をお願い申し上げます。同窓会員の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

第72回日本学校農業クラブ全国大会
令和3年度 兵庫大会 プロジェクト発表会
分野Ⅲ類「ヒューマンサービス最優秀賞」文部科学大臣賞
分野Ⅲ類「ヒューマンサービス最優秀賞」文部科学大臣賞

**「HACCP導入」応援団！
農業高校生が食品の安全
安心を考えろ**



翠星 HACCP
スクールツアー
QRコード



食品科学
研究会



第72回日本学校農業クラブ全国大会
令和3年度 兵庫大会

石川県立翠星高等学校総合グリーン科学科
食品科学コース食品科学研究会

HACCP (ハサップ)とは
食品の製造工程で食中毒や異物混入などの健康被害が起る可能性がある部分を特定し、継続的に監視して製品の安全性を確保する衛生管理手法のこと。

三度目の日本一

食品科学研究会 顧問・教諭 安川 三和
(平成十一年卒)



食品科学研究会は食品科学コースの部活動で、模擬株式会社運営による起業家活動・農業高校生による6次産業化支援を行っている。それらの成果を農業クラブで発表し、毎年全国大会に挑戦している。今年度、「日本学校農業クラブ全国大会(兵庫

六星・翠星は希望の星
昭和四十五年卒 農業科 六星同窓会副会長 竹本 敏晴

大蔵先生 お疲れさま

このスペースは、本来大蔵前会長の御退任挨拶の欄で、小生如きがチャベチャベと出しゃばるのは、恐れ多い極みです。しかし先生がわざわざ、九谷の里の当農場まで足を運ばれ、丁寧に「お前書いてくれんが」の御言葉があれば、例え火の中・水の中行くが教え子の進む道。まずは、先生長い間お疲れさまでした。そして有難うございました。

先生が大学を卒業後、母校に赴任された年、小生らも入学し、クラスの副担任に任せられました。「アレカラ五〇年!!」長い間教えを頂いています。

◆副会長を拝命
ところで、二三年前、先生からお電話があり、例によって丁寧に「お前副会長をやれ」でした。この度新しく選任された本会長の下で、脇役を務めることになりました。

本会長とは、母校同クラスで、三年の時に、氏が生徒会長で、小生が農業クラブ会長(現在はよく判りませんが、当時は全校生の選挙で選任)を務めた腐れ縁で、今でも家族ぐるみのお付き合いをさせてもらっています。



大会「プロジェクト発表会分野Ⅲ類」にて最優秀賞及び文部科学大臣賞を受賞し、平成二十九年、令和元年度につき三度目の日本一に輝いた。

日本一を目指して九年。毎年生徒とともに全力かつ最大限の努力をする。しかし、今年度はコロナ禍のため休部や外部訪問禁止等の措置が行われ、研究会活動が大幅に制限された。許された時間で「全国レベルの活動と競技トレーニング」ができるのか？指導者として答えが見えず「全国を諦める」という言葉が何度も心をよぎった。そんな中、生徒と話し合いを重ね、限られた時間で最善の活動をしようとした。生徒は精神的にも肉体的にも極限状態が続いたと思う。結果として、全国の舞台で過去最高の発表をし、三度目の日本一を勝ち取った。厳しい状況下でも努力を諦めなかつた部員は私の誇りであり、不可能を可能にするのは「情熱」だと改めて感じた。

今年度の研究テーマは令和三年六月に義務化された国際的な食品衛生管理手法「HACCP」の普及である。昨年、コースと協力し教育機関のHACCP第三者認証「JFSB規格」適合証明に合格した経験から、自分たちのHACCPの取組みをモデル化し生産者や就労施設に「HACCPを含めた6次産業支援」を実施した。8月にネット配信したHACCP how to動画「翠星HACCPスクールツアー」は、食品企業の社員教育や石川中央保健所の講習会で教材として採用されたことに加え、複数の企業からHACCPを学んだ卒業生を採用したいと求人依頼があり、食品産業の発展に寄与する社会的意義の高い活動となった。また、テレビ局の密着取材も受け、大きく注目されたのである。

生徒には、自分たちの活動に誇りを持って食品業界で活躍することを願う。そして、今後も翠星高校が地域から求められる存在でありつづけるため頑張りたい。

**環境科学コース環境設計分野の近年の活躍
生徒達の琴線とふれあつ日々**

環境科学コース 環境設計分野 教諭 市村 実



「ここ数年は、食品科学コースの活躍ばかりが目立つが、他のコース・分野は何をしているの？」との声が漏れ伝わる昨今でした。

本校にて初めての教壇に立ち彼此二十九年。「翠星LOVE」を合言葉に、時節時節一杯、生徒に寄り添い、時に背中を押したり、進むべき方向を導いたりして来たつもりでしたが、斯様な指摘には明確な返答を見つけれずにいきました。

しかしながら、ここ数年力を入れていた指導が「測量士補国家試験の補習」でした。本格的に取り組み始めたのは四年前。その年の受験希望者は三名で、結果は三名共にあと二問のところで不合格でした。

ようやく結果が出たのは昨年でした。土日を中心に二〇〇時間超の補習を行った結果、五名中二名が合格し、翠星高校初の測量士補が誕生しました。そして今年度は二五〇時間を超える補習時間を経て、三名見事に合格しました。他の工業高校でも毎年受験している話ですが、本年度は合格数で金沢市立工業と並び、県内二位になりました。喜ばしいことですが、長期間の補習について来てくれた生徒達の努力の賜物であると実感しています。

また、例年出場している各種測量大会でも、顕著な成績を収めることができました。「農業クラブ全国大会平測量競技会」では、三年生が優秀賞に輝きました。この大会は、長年に渡り私自身が指導に携わってきた競技です。若い頃は結果に気を取られてばかりでなかなか勝てない時期もありました。しかし、競技に関わった生徒達が変化し、成長



し、自立してゆく姿に触れているうちに、測量の練習期間が掛け替えのない楽しい時間に変化しました。一方、毎年県内の工業高校と競い合う「石川県高等学校測量技術コンテスト」では、二年生が一位二位を独占しました。寒冷前線通過真只中での水準測量競技でしたが、降りしきる豪雨の中、学んだ測量技術を発揮するために他のどのチームよりも勇敢でした。そのような生徒達の真剣に取り組み姿勢が、逆に自身の背中を押してくれたことに気付かせて貰えた一年でした。

私は、測量の知識・技術を教えている時が一番楽しいです。それは若い頃からそうでした。ただ、その対象が松農・翠星の生徒達だからこそ特別なかも知れません。実は、たくましくも自我を形成し、人格を完成させてゆく生徒との出会いは、私にとっても掛け替えのない三年間だったのです。大蔵同窓会会長が松農校長時代に「琴線に触れる時」というお話をされました。今から二十年以上も前のことです。私も五十二歳になりました。やっと、その内容を理解できるくらいの経験を積むことができたのかも知れません。

六星は希望の星

母校卒業後、コメ作りに従事して半世紀になります。この間イロイロあり過ぎましたが、県内ではいち早く産直米を手掛けたが、また平成五年には法人化し、IPPパシの社長になりました(今は社長の椅子を息子に譲り、取締役会長)。さらに市や県のお仕事を手伝わせてもらっています。

アレもコレも、「六星」の輝きのオカゲにホカナリマセン。新しい校名「翠星」とともに、私どもの「心の星」、地域の「希望の星」として、光輝く事を願うばかりです。

新たな人生への挑戦

平成六年卒 造園学科 山本 佳裕



六星同窓会員の皆様。初めて寄稿いたします。私は、昨年になりましたが、令和三年二月二十一日に行われ

ました白山市議会議員選挙に立候補して初めて当選し、白山市議会議員として活動しています。

それまではといても、現在も兼職ではあるのですが、家業の(有)グリーンハウス・ユウで造園・園芸の販売、工事を行っています。しかし、代表は兼務できず当校の卒業生でもある社員に社長をお願いしている状況です。

私は、白山市で生まれ白山市で高校まで育てていただき、当時の先生に後押ししていただき、両親のおかげでもありますが、東京農業大学農学部造園学科まで進学することができました。当時、実業高校に通う時点で卒業後は就職することを前提とし

ていましたが、農業高校特有の事業で農業クラブ会長や全国大会など、貴重な体験をさせていただきました。そういった勉強だけでなく人間力を高める教育が今日の私の基本になっていると思います。

このたび市議会議員として挑戦しようと思った理由には、農業を通じて感じた地域の発展や成長には政治が欠かせないという現実。僕らの世代の大部分はそういった政治や選挙に関する教育はもろろん。話をすることすら良くないことのような印象を持っていきます。地域活動や仕事をしていてそのまま流されてはいけないということを感じました。

これまでの地域が良いのはこれまで守り育てていただいた人々のおかげであり、これから自分たちの地域が住みよいまちであることの責任は自分たちにあります。六星の由来に「農業は国の本なり」とあり、教育の基本を星になぞられたとあります。その理念を翠星高校卒業生の一人として心に刻みこれからの白山市の発展に挑戦していきます。

食品業界の片隅で

平成三年卒 食品製造科 中村 浩三

六星同窓会の皆様には、益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。

私が松任農業高校食品製造科を卒業したのは平成三年です。早いもので三十年が経ちました。二年生の時に食肉加工の実習があり大変興味を持ち、卒業後は小松市にあった食肉会社に就職しました。その後、富山県の食品工場、愛知県小牧市の採卵養鶏・養豚場の直売加工工場、三重県津市の養豚・食肉加工の会社で、ハム・ソーセージの加工を中心に勤めてきました。七



食が生み出すシーンは様々ですが、「美味しいは人を笑顔にする」を信念に全国の皆様笑顔になる瞬間の一助になるべく、食品業界の片隅で励んでまいります。

最後になりましたが、母校並びに六星同窓会の益々の発展を祈念致します。

